

**Polymer fibres with high tensile strength and modulus - by stretching polymer gel filaments contg. large amts. of solvent at between the swelling point and m.pt. of the polymer**

**Patent Assignee:** STAMICARBON BV

**Inventors:** LEMSTRA P J; PENNINGS A J; SMITH P

### Patent Family

Patent Number	Kind	Date	Application Number	Kind	Date	Week	Type
BE 881587	A	19800807				198034	B
DE 3004699	A	19800821				198035	
NL 7900990	A	19800812				198035	
GB 2042414	A	19800924				198039	
SE 8000997	A	19800908				198039	
BR 8000775	A	19801021				198045	
FR 2448587	A	19801010				198048	
ZA 8000528	A	19801125				198108	
US 4344908	A	19820817				198235	
GB 2042414	B	19821222				198251	
CA 1152272	A	19830823				198340	
CS 8000810	A	19840813				198443	
JP 60075606	B	19850430				198523	
JP 60075607	B	19850430				198523	
NL 177840	B	19850701				198530	
CH 650535	A	19850731				198534	
SU 1138041	A	19850130				198534	
AT 8000652	A	19850815				198538	
JP 55107506	A	19800818				198547	
JP 85047922	B	19851024				198547	
DE 3051066	A	19861127				198649	

Dialog Results

JP 62045714	A	19870227		198714
DE 3004699	C	19871029		198743
DE 3051066	C	19871210		198749
IT 1144056	B	19861029		198832
JP 89008732	B	19890215		198910
MX 189277	B	19980707	MX 923707	A 19920629 200034

**Priority Applications (Number Kind Date): NL 79990 A ( 19790208)**

**Patent Details**

Patent	Kind	Language	Page	Main IPC	Filing Notes
MX 189277	B			D01F-006/004	

**Abstract:**

BE 881587 A

Polymer filaments with a high tensile strength and modulus are made by stretching polymer filaments contg. a considerable amt. of a solvent for the polymer, at a temp. between the swelling point and the m. pt. of the polymer.

Pref. a 1-5 wt.% soln. of the polymer is spun in the usual way and the resulting filaments are cooled to below the dissolution temp. of the polymer. The resulting filaments, pref. contg. >=25 wt.%, esp. >=100 wt.% solvent w.r.t. polymer, are then stretched >=5 times, esp. >=10 times at a temp. between the swelling temp. of the polymer in the solvent and the m. pt. of the polymer, with at least partial evapn. of the solvent.

The process gives filaments with high tensile strength and modulus. It is esp. applicable to polyolefin fibres, e.g. in the prodn. of polyethylene filaments with a tensile strength of >=1.2 GPa. The prods. are useful in all applications requiring high strength fibres, e.g. as reinforcements, tyre cords, etc.

Derwent World Patents Index

© 2006 Derwent Information Ltd. All rights reserved.

Dialog® File Number 351 Accession Number 2540725

(1) 日本国特許庁 (JP)

(1) 特許出願公告

## (2) 特許公報 (B2)

昭60-47922

(3) Int.Cl.<sup>4</sup>D 01 F 6/04  
D 01 D 5/06

識別記号

府内整理番号  
6791-4L

(2)(4)公告 昭和60年(1985)10月24日

発明の数 1 (全6頁)

(4) 発明の名称 引張り強さと弾性率が共に大きいポリオレフィンフィラメント及びその製造方法

(2) 特願 昭55-14245

(5) 公開 昭55-107506

(2) 出願 昭55(1980)2月7日

(3) 昭55(1980)8月18日

優先権主張

(2) 1979年2月8日 (オランダ)(NL) (3) 7900990

(2) 発明者 ポール・スマス

オランダ国6135イー・ピー・シッタード・リイネストラート16

(2) 発明者 ピーター・ヤン・レム

オランダ国6444テー・エツクス・ブランサム・ウォルカンダスストラート3

(2) 発明者 アルバータス・ヨハネス・ベニングス

オランダ国9331ビー・イー・ノーグ・エツテンラーン3

(2) 出願人 スタミカーボン ビ

オランダ国ゲリーン(番地なし)

一。ペー。

(2) 代理人 弁理士 青山 葦

外2名

審査官 宮本 晴視

(6) 参考文献 特開 昭48-33124 (JP, A)

特公 昭37-10864 (JP, B1)

特公 昭37-9765 (JP, B1)

特公 昭40-20486 (JP, B1)

1

2

## (7) 特許請求の範囲

1 濃度1～30重量%の加熱ポリオレフィン溶液を溶液紡糸して溶液状態のフィラメントをえ、直ちに該溶液状フィラメントを、積極的には溶媒の除去を行わずに、溶解温度以下に冷却することによつてゲルフィラメントとし、得られたポリオレフィンゲルからなるゲルフィラメントを延伸するにあたつて該ゲルフィラメントが該ポリオレフィンに対して少なくとも25重量%の溶媒を含んだ条件下に、少なくとも10以上の延伸比で延伸することを特徴とする引張り強さと弾性率が共に大きい延伸されたポリオレフィンフィラメントを製造する方法。

2 ゲルフィラメントの延伸をポリオレフィンの膨潤点と融点との間の温度で行う前記第1項の方法。

3 延伸を20倍以上の延伸比で行う前記第1項または第2項の方法。

4 延伸を30倍以上の延伸比で行う前記第1項、

第2項または第3項の方法。

5 ポリマー濃度1～5重量%のポリオレフィン溶液をゲルフィラメントに紡糸する前記第1項の方法。

6 溶液紡糸直後の溶液状フィラメントを溶媒の除去を積極的に促進させずに溶解温度以下に冷却してゲルフィラメントを形成させる前記第1項の方法。

7 ポリオレフィンが高分子量ポリエチレンである前記第1項の方法。

## 発明の詳細な説明

本発明は引張り強さと弾性率が共に大きいポリオレフィンフィラメント、そして可紡性材料の溶液を紡糸することによってこのようなポリオレフィンフィラメントを製造する方法に関する。

フィラメントは線状ポリマーを紡糸することによつて作られる。この方法ではポリマーを液状(溶隔状、溶液状)にしてから紡糸する。このようにして得られたフィラメントは分子鎖がランダ

ムに配向しているため、次に長さ方向に延伸しなければならない。他の物質も紡糸できるけれども、フィラメントに紡糸できるという点からみれば鎖状巨大分子が重要である。側鎖はフィラメントの形成や機械的特性に悪影響をもつ。従つて、フィラメントの製造の基礎は可能な限り線状に近いポリマーを使用することにある。ただし、ほとんどの場合小さな程度の枝分れは避けがたいものであるが、これは実際には許容できる。

フィラメントを延伸すると、鎖状巨大分子が長さ方向に配向し、フィラメントの強度が増すが、得られる強度はほとんどの場合理論的に期待できる値よりはるかに小さい。既に、理論的に可能な値に近い引張強さや、弾性率をもつフィラメントを得るために数多くの提案がなされてきた。これら提案はPlastica 31 (1978) 262-270やPolymer Eng.Sci. 16 (1976) 725-734などの雑誌に要約されて発表されているが、いずれも結果は満足できるものではない。弾性率ならば十分に改良できるが、引張強さはそうでない事例が多く、さらにフィラメントの生成が非常に緩慢なので、経済的な製造は見込めない。

ところが、ポリマー用溶剤を相当量含むポリマーフィラメントを膨潤点と融点との間にある温度で延伸すると、引張強さと弾性率が共に大きいポリマーフィラメントが得られることを今回見出した。この場合に、常法で可紡性溶液を紡糸し、生成したフィラメントを溶解温度以下に冷却してから、溶媒中にあるポリマーの膨潤点とポリマーの融点との間にある温度にフィラメントを加熱した後、延伸するのが好ましい。

一般に工業的規模で適用され、乾式紡糸と呼ばれている方法では、可紡性ポリマーの溶液をシャフトで紡糸し、このシャフトに通常は高温の空気を吹き付けてフィラメントから溶剤をほとんどすべて蒸発させる。シャフト内の温度がポリマーの融点以下であるため、溶剤が蒸発したときにポリマーが析出する。これにより紡糸口の出口では依然としてかなり低いフィラメントの機械的強度が大きくなる。この強度はポリマーの融点以下の温度で延伸操作すると、さらに大きくなる。

本発明によれば、ポリオレフイン溶液1の紡糸直後に行なうフィラメントからの溶剤の蒸発は冷却時に促進されない。フィラメントは適当な方法

で、冷却液2、(例えば水浴)に通すか、あるいは空気がほとんど全く吹き付けられていないシャフトに通すことによって溶剤中のポリマーの溶解温度以下、特にポリマーの膨潤点以下に冷却できる。溶剤がフィラメントから自然に若干量蒸発することがあるが、これは避けることができない。これは蒸発を積極的に促進させず、従つてフィラメントの限り、何ら問題を引き起さない。所望ならば、溶剤蒸気を含むふん囲気で紡糸を行なうことによって溶剤の蒸発を抑えたり、抑制することができる。

溶剤中のポリマーの溶解温度以下、特にポリマーの膨潤点以下に冷却すると、紡糸液からポリマーが析出し、そしてゲルが生成する。このポリマーゲルからなるフィラメント(ゲルフィラメントともいう)は紡糸によく使用されているガイド、ロール4、6などによつてさらに加工処理するのに必要な機械的強度を十分に持ち合わせている。この種のフィラメントは溶剤中のフィラメントの膨潤点とポリマーの融点との間にある温度に加熱すれば、その温度で延伸できる。これは所要温度に保持したガス状か液状の媒体を含む領域にフィラメントを通すと実施できる。ガス状媒体として空気を使用する管状オープン5が好適であるが、勿論液体浴あるいは他の適当な装置も使用できる。ガス状媒体は取り扱い易いので好ましい。

フィラメントを延伸している間に、溶剤が蒸発する。溶状媒体を使用する場合には、溶剤がこの媒体に溶解する。蒸発は例えば延伸域のフィラメントにガスか空気の流れを導びくなどして溶剤蒸気を除去するなどの適当な手段によって促進するのが好ましい。溶剤はその少なくとも一部を蒸発しなければならないが、少なくとも溶剤の大部分を蒸発するのが好ましい。というのは、延伸域の出口端におけるフィラメントの溶剤含率はきわめて小さな値、例えば固体分に対して数%程度でなければならないからである。この最終段階で得られるフィラメントには溶剤が残らないようにしなければならない。従つて、延伸域内で既に溶剤が全くかほとんどない条件を設定するのが有利である。

本発明方法によれば驚くべきことに、公知乾式紡糸法のいかなるものによつても得ることができないきわめてきな強度をもつ、即ち引張強さ及び

弾性率がきわめて大きいファイラメントを得ることが可能になる。前述した文献に記載されている方法によつても弾性率の大きいファイラメントが得られることは認めるが、この方法では引張強さに関して大きな問題が残る。また、この方法は生産率が低い。

本発明の方法と公知乾式紡糸法の相違点は前者では可紡性材料がこれの溶剤中で少なくとも膨潤する温度で該溶剤を相当量含むファイラメントを溶剤を除去しながら延伸するが、一方後者では溶剤を含んでいないファイラメントを延伸する点にある。

また乾式紡糸では線状ポリマーが適当な溶剤に可溶であることがひとつの要件である。可溶性ポリマーに対して使用できる溶剤は多数知られている。当業者ならば何ら困難を感じることなしに、沸点がファイラメントからの溶剤の蒸発をむずかしくする程高くないと同時に、溶剤の揮発を促進させると共に急激な蒸発によりファイラメントの生成を妨害する程低くない溶剤を選択できるはずである。また、溶剤はこのようなことが起きない圧力下で使用しなければならない。

ポリマーを適当な溶剤に溶解すると膨潤が生じる。溶剤を吸収して容積が増すと、かなり膨潤したゲルが形成する。しかし、このゲルはそのコンシステンシーならびに形状安定性からみて一種の固体物質とみなすべきである。そして、このポリマーは一般に配向した部分（結晶性部分）とそれ程配向していない部分（無定形部分）からなると考えられる。配向した部分が係留点（anchoring points）として挙動してゲルに形状安定性を付与するものだと考えられる。ゲルの形成と溶解は時間に依存する。所与のポリマーは所与の温度以上でのみ所与の溶剤に溶解させることができる。この溶解温度以下では膨潤はわずかしか起こらず、そして温度が低くなるにつれて、膨潤が小さくなり、所定の点にいたると膨潤は無視できる程度になる。膨潤点すなわち膨潤温度とは溶積が著しく増加すると共に、溶剤の吸収が著しくなる（ポリマー重量の5～10%）温度を意味するものである。また別な言葉でいえば、膨潤温度（これより高い温度で延伸を行なう）とは10%の溶剤が疑いなく膨潤ポリマーに吸収される温度を意味するものである。

通常使用されている乾式紡糸法では、技術上及び経済上の理由から5～30重量%の溶液が使用される。このような溶液も本発明に使用できるが、濃度がより低い溶液を使用するのが一般的である。1～5重量%の溶液を使用するのが有利である。これよりさらに低い濃度も適用できるが、これといつて有利ではないし、また経済的にみれば不利である。

適当な延伸比は実験により簡単に決定できる。  
10 所定の、範囲内ではファイラメントの引張強さ及び弾性率はほぼ延伸比に比例する。ファイラメントの強度を大きくする場合には、延伸比を大きくする必要がある。

延伸比の最小値は5であるが、好適な最小値は  
15 10で、より好適な最小値は20である。30～40かこれ以上の延伸比も支障なく適用でき、この場合に得られるファイラメントの引張強さ及び弾性率は従来法によつて得たファイラメントのそれよりもかなり大きい。

20 公知乾式紡糸法では紡糸口金の紡糸口の直径は通常小さい。一般に直径は0.02～1.0mmである。小さい径（0.2mm以下）の紡糸口を使用する場合には、特に紡糸過程自体が紡糸液に存在する不純物に影響を受けやすい。従つて、固形不純物を注意深く取除いて、きれいな状態にしておかなければならぬ。多くの場合、フィルタを紡糸口金に設けている。にもかかわらず、目詰りがたびたび起るので、短時間毎に紡糸口金をきれいにする必要がある。ところが、本発明方法ではかなり大きい延伸比を適用できる上に、紡糸液のポリマー濃度を一般に低くできるので、0.2mm以上の例えば0.5～2.0mmかそれ以上の紡糸口を使用できる。

25 本発明は所定ポリマーの強靭なファイラメントの製造に限定されるものではなく、乾式紡糸によりファイラメントにできる材料にも適用できるものである。

30 本発明方法で紡糸できるポリマーには例えばポリエチレン、ポリプロピレン、エチレン／プロピレン共重合体、ポリオキシメチレン、ポリエチレンオキシドなどのポリオレフィンが好適である。

35 ポリエチレン、ポリプロピレン、エチレン／プロピレン共重合体などのポリオレフィン及び高級ポリオレフィンか支障なく飽和脂肪族及び環式炭化水素や芳香族炭化水素あるいはこれらの混合物

例えば鉛油留分に溶解させることができる。好適なのはノナン、デカン、ウンデカン、ドデカン、テトラリンなどの脂肪族か環式炭化水素、あるいは沸点がこれらに対応する鉛油留分である。ポリエチレンやポリプロピレンはデカンやドデカンに溶解するのが好ましい。本発明の方法はポリオレフイン好ましくはポリエチレン特に高分子量ポリエチレンのフィラメントのフィラメントの製造に、適するものである。

本発明によればまた共通な溶剤に溶解させた種類以上のポリマー溶液からフィラメントを作ることも可能である。この場合、使用ポリマーは相互に混和性を示すものである必要はない。例えば、融成物が非混和性であるポリエチレンとポリプロピレンと一緒にデカリンかドデカンに溶解させて、得られた溶液を紡糸することも可能である。

本発明によつて得たフィラメントは多くの用途に使用できる。本発明のフィラメントは繊維やフィラメントを補強材として使用する種々な材料の補強材として、そしてタイヤ用糸として適用できると共に、軽量ではあるが強度の大きいことが望ましい特徴になる考えられるすべての用途に適用できる。以上のはかにも用途が考えられることはいうまでもない。

本発明を以下実施例により説明するが、本発明はこれに限定されるものではない。

#### 実施例 1

高分子量 ( $M_w = 1.5 \times 10^6$ ) のポリエチレンを 145°Cでデカリンに溶解して 2重量%の溶液を作つた。130°Cで紡糸口径 0.5mmの紡糸口金を用いてこの溶液を紡糸した。室温に保持した水浴にフィラメントを通してこれを冷却した。外見がゲル状で、依然として 98%の溶剤を含んでいた太さ 0.7mmの冷却されたフィラメントを次に 120°Cに加熱した管状オープンに通し、そして種々な延伸比で延伸した。

この実施態様は第 1 図に図式的に示してある。

第 2 図及び第 3 図はそれぞれ延伸比と引張強さ及び弾性率との関係を示すグラフである。弾性率は 60GPa以上で、引張強さはほぼ 3GPaであるが、公知方法で得たポリエチレンフィラメントの弾性率は 2~3GPaで、その引張強さは約 0.1GPa

であつた。第 2 図及び第 3 図のグラフに示した異なる延伸比とフィラメントの弾性率及び引張強さとの関係を表 1 にまとめる。

引張強さが 1.2GPa以上のポリエチレンフィラメントは本発明によつて容易に作ることができる。

実験番号	延伸比	弾性率 GPa	引張強さ GPa
1	1	9.4	0.09
2	3	5.4	0.27
3	7	17.0	0.73
4	8	17.6	0.81
5	11	23.9	1.32
6	12	37.5	1.65
7	13	40.9	1.72
8	15	41.0	1.72
9	17	43.1	2.11
10	25	69.0	2.90
11	32	90.2	3.02

#### 実施例 2

実施例 1 の方法に従つて、高分子量ポリエチレン ( $M_w \approx 1.5 \times 10^6$ ) と高分子量ポリプロピレン ( $M_w \approx 3.0 \times 10^6$ ) との等量からなる混合物の 2重量%溶液を 140°Cで紡糸し、そして温度 130°C、延伸比 20、で延伸した。フィラメントは引張強さが 1.5GPa であつた。

#### 実施例 3

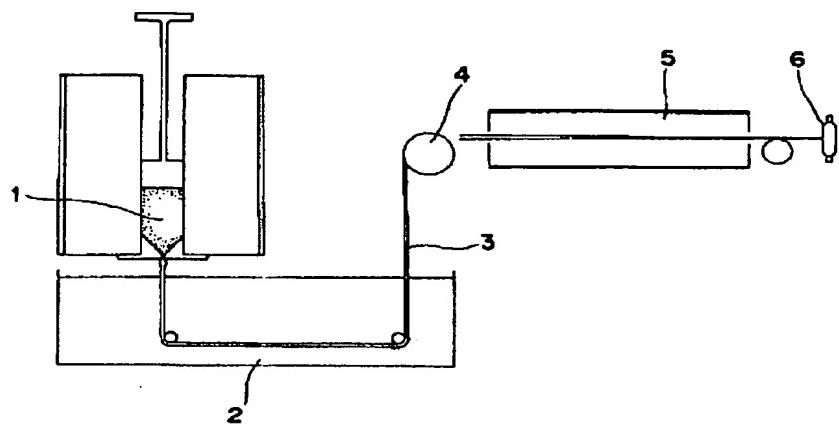
実施例 1 に従つて、アイソタクチックポリプロピレン ( $M_w \approx 3.0 \times 10^6$ ) の 2重量%溶液を 140°Cで紡糸し、そして温度 130°C、延伸比 20 で延伸した。生成フィラメントは引張強さが 1GPa であつた。

#### 図面の簡単な説明

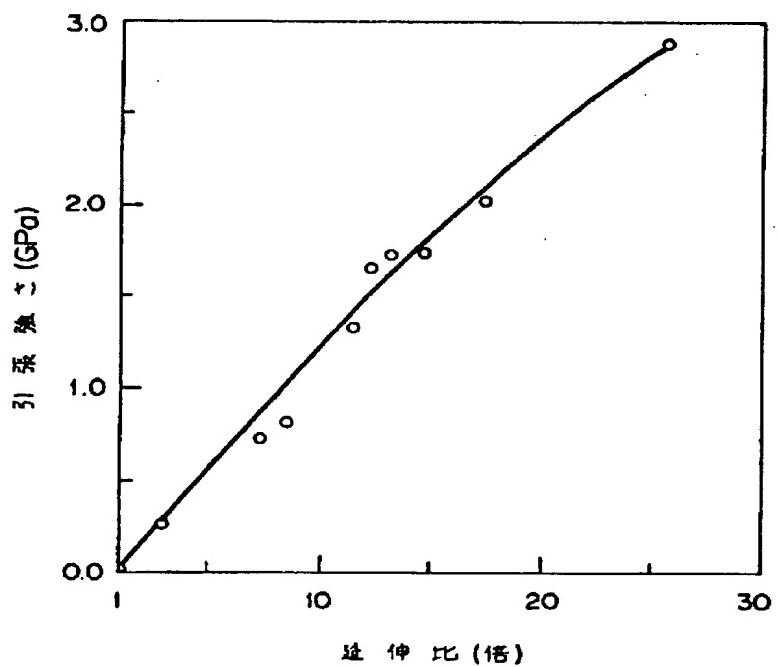
第 1 図は本発明方法の実施態様を図式的に説明する図であり、第 2 図は延伸比とフィラメントの引張強さとの関係を示すグラフであり、そして第 3 図は延伸比とフィラメントの弾性率との関係を示すグラフである。

図中の符号は次のとおりである。1…ポリマーア溶液、2…冷却液、3…ポリマーゲル、4…ロール、5…オープン、6…ロール。

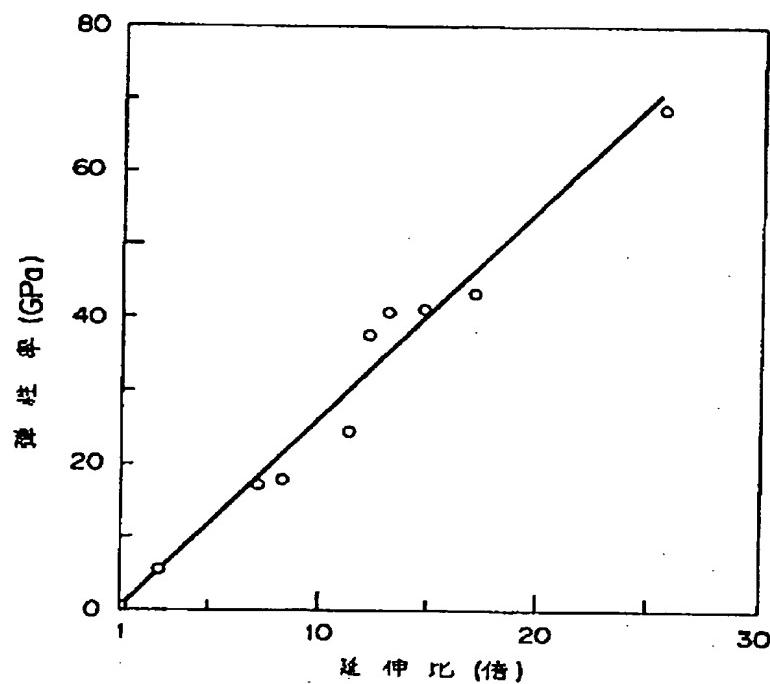
第1図



第2図



第3図



昭 63. 9. 13 発行

以上の効果は後記の実施例2、比較例3のパルプ濃度の比較において30%で一応のピークに達していることから明らかである。」と補正する。

4 第5欄15行「2.0%及び3.0%」を「2.0%及ぶ3.0%」と補正する。

5 第3、4頁の表中「アルカリ濃度(%)」を「アルカリ濃度%」と補正する。

昭和55年特許願第150137号(特公昭61-58584号、昭61.12.12発行の特許公報3(5)-38〔272〕号掲載)については特許法第64条の規定による補正があつたので下記のとおり掲載する。

特許第1449107号  
Int. Cl.<sup>4</sup>  
D 05 C 5/04  
D 05 B 19/00  
識別記号 庁内整理番号  
6557-4 L  
7633-4 L

記

1 「特許請求の範囲」の項を「1 予めセットされたプログラムに従つて刺繡を自動的に行なう自動刺繡機において、刺繡の実行中に糸切れが発生したとき、同一の検出器による糸切れの検出をn回(但し $n \geq 1$ )繰り返し行ない、その各回共糸切れを検出したときだけ糸切れと判断する糸切れ検出手段と、その糸切れの検出に応じて無条件に刺繡の位置をmステップ(但し $m \geq n$ )だけ戻す手段とを有することを特徴とする自動刺繡機。」と補正する。

昭和55年特許願第14245号(特公昭60-47922号、昭60.10.24発行の特許公報3(5)-38〔227〕号掲載)については特許法第64条の規定による補正があつたので下記のとおり掲載する。

特許第1447082号  
Int. Cl.<sup>4</sup>  
D 01 F 6/04  
D 01 D 5/06  
識別記号 庁内整理番号  
6791-4 L  
8521-4 L

記

1 「特許請求の範囲」の項を「1 濃度1~30重量%の加熱した分子量60万以上のポリオレフィン溶液を溶液紡糸して溶液状態のフィラメントを得、直ちに該溶液状態フィラメントを、積極的には溶媒の除去を行わずに、溶解温度以下に冷却することによってゲルフィラメントとし、得られたポリオレフィンゲルからなるゲルフィラメントを延伸するにあたつて該ゲルフィラメントが該ポリオレフィンに対して少なくとも25重量%の溶媒を含んだ条件下に延伸を開始し、延伸の最終段階で少なくとも大部分の溶媒がなくなるように溶媒を除去しながら、全延伸倍率が少なくとも11以上の延伸比で延伸して引張り強さ1.32 GPa以上、弾性率23.9 GPa以上のフィラメントを得ることを特徴とする引張り強さと弾性率が共に大きい延伸されたポリオレフィンフィラメントを製造する方法。

2 ゲルフィラメントの延伸をポリオレフィンの膨潤点と融点との間の温度で行う前記1項の方法。

3 延伸を20倍以上の延伸比で行う前記第1項または第2項の方法。

4 延伸を30倍以上の延伸比で行う前記第1項、第2項または第3項の方法。

5 ポリマー濃度1~5重量%のポリオレフィン溶液を紡糸し、冷却してゲルフィラメントにする前記第1項の方法。

6 ポリオレフィンが分子量60万以上のポリエチレンである前記第1項の方法。」と補正する。

計 23 (1)

昭 63. 9. 13 発行

2 第7欄6行「本発明の方法は」の次に「分子量約600,000以上の高分子量ポリオレフィン、」  
を挿入する。

昭和57年特許願第134328号(特公昭62-8539号、昭62.2.23発行の特許公報3  
(5)-7〔280〕号掲載)については特許法第64条の規定による補正があつたので下記のとおり掲載  
する。

特許第1445855号  
Int. Cl.<sup>4</sup>  
D 03 D 47/39

識別記号 廷内整理番号  
8723-4L

記

- 1 「発明の名称」の項を「袋織の花座におけるい草抜け防止方法」と補正する。
- 2 「特許請求の範囲」の項を「1 花座織機の正面に掛け廻した多数の縦糸をツム杆でもつて前後方向へ誘導すると共に各縦糸の前面に接合と離解作動をなすい草枠で形成されるい草入れのための開口へ縦糸の前後作動並びにい草枠の接合離解作動とタイミングを合せて織機の1方側に設けたい草分け器及び送りローラーより無着色い草と着色い草とを交互に送り出すと共に各い草の送り込みごとにオサ杆でもつてい草を下方へ押し下げ、1方側より無着色い草と着色い草とを交互に計4本を送り出して各々のい草をオサ杆で下方へ押し下げした後に織機の他方側に設けたい草分け器及び送りローラーより同様にい草入れのための開口へ縦糸の前後作動並びにい草枠の接合離解作動とタイミングを合せて無着色い草と着色い草とを交互に送り出して各い草の送り込みごとにオサ杆でもつてい草を下方へ押し下げ、無着色い草と着色い草との計4本を送り出した後に再び織機の1方側よりい草を送り出し、縦糸の下方位置へ交互に押し下げられた無着色い草と着色い草との各2本、計4本を側面視C型状に作動して縦糸と係合した地締め杆で地締めしながら花座を袋織りする工程において、オサ杆に設けたイ草感知器で縦糸内へ順次送り込まれるい草を感知し、任意の1本のい草の縦糸への送り出しが不発となつた場合には、イ草感知器で不発を感じし、織機を停止させることなく、い草分け器を一定時間停止させて、い草の送り出しを一時停止させて織成作動を継続することを特徴とする袋織の花座におけるい草抜け防止方法。」と補正する。
- 3 第3欄25~27行「後続の……ことにより、」を「い草分け器を停止させて、い草の送り出しを一定時間停止させて、織成作動を継続させることにより」と補正する。
- 4 第3欄35~40行「花座織機……送り出し、」を「い草分け器2,2に隣接してい草進行方向に配設した送りローラーRによって、花座織機1の正面部に設けたい草枠4の背面のい草誘導路並びに前後方向へ張り出しされた縦糸の開口内へ、1方側のい草分け器2から送りローラーRにきたい草を送り出すものであり、その際、無着色い草と着色い草とを縦糸の前後作動並びにい草枠の接合離解作動とタイミングを合わせて交互に送り出し、」と補正する。
- 5 第4欄3~4行「次に……送り出し、」を「次に織機の他方側に配設したい草分け器2と送りローラーRより無着色い草と着色い草とを交互に送り出し」と補正する。
- 6 第4欄14~17行「い草送り出し……させながら」を「い草分け器2,2を一定時間停止させてい草の送り出しを一時停止させて」と補正する。
- 7 第5欄22~29行「本発明……停止させ、」を「本発明においては、無着色い草A-3が不発になつたことをオサ杆5に設けたい草感知器7が感知し、後続する着色い草B-4、次に左側より送り込まれる無着色い草A-5、着色い草B-6の送り込みを、い草分け器2,2の一定時間の停止によつて停止させ、」と補正する。
- 8 第4頁「第1図」を「